

社会

豪雨で九州の96高齢者施設が被災 21施設でなお停電や断水

2020/7/17 6:00

西日本新聞 一面 梅沢平 長田健吾 御厨尚陽



拡大

球磨川の濁流が押し寄せた千寿園（7日、熊本県球磨村）



重複あり）は浸水89、停電20、断水14。

熊本県は、4日未明の猛烈な雨と球磨川の氾濫で特に被害が大きかった。千寿園では、職員や近隣住民が入所者を2階に避難させ51人が救出されたが、14人が1階で水死した。

芦北町では佐敷川が氾濫し、特養「五松園」の1階が最大80センチ浸水。男女5人の当直スタッフが入所者90人を抱えて2階などに避難させ、人的被害はなかった。町によると、五松園を含む4施設が再開できず、入所者を熊本市内の特養などに移動させている。

人吉市にある居宅介護事業所「菜の花」は1階天井まで水に漬かった。市によると、施設職員が10人の入所者を避難所に移動させており無事だった。グループホームなどで浸水被害があった八代市の担当者は「大規模災害時には、行政の動きが後手に回ってしまうことがあり、各施設に独自の対応をお願いしないとイケない」と話す。

東京女子大の広瀬弘忠名誉教授（災害リスク学）は「高齢者は避難に時間がかかり、未明は施設の職員数も限られている。空振りを恐れずに迅速に避難することが重要だ。今回の水害で高齢者施設がどのような避難行動を取ったのか検証が必要だ」と話した。（梅沢平、長田健吾、御厨尚陽）

熊本県南部を中心に九州全域を襲った豪雨で、浸水などの被害を受けた高齢者施設が九州で96施設に上ることが、厚生労働省のまとめで分かった。16日午前11時現在、21施設で停電や断水が続く運営に支障が出ている。同県球磨村の特別養護老人ホーム（特養）「千寿園」で入所者14人が犠牲になったほか、施設が再開できずに移動を余儀なくされた高齢者もいる。

厚労省によると、被災した施設数は、福岡県では大牟田市26、久留米市6などの計45。熊本県は人吉市9、八代市と芦北町各7など計34。長崎県は11、大分県は6。被害の内容（重